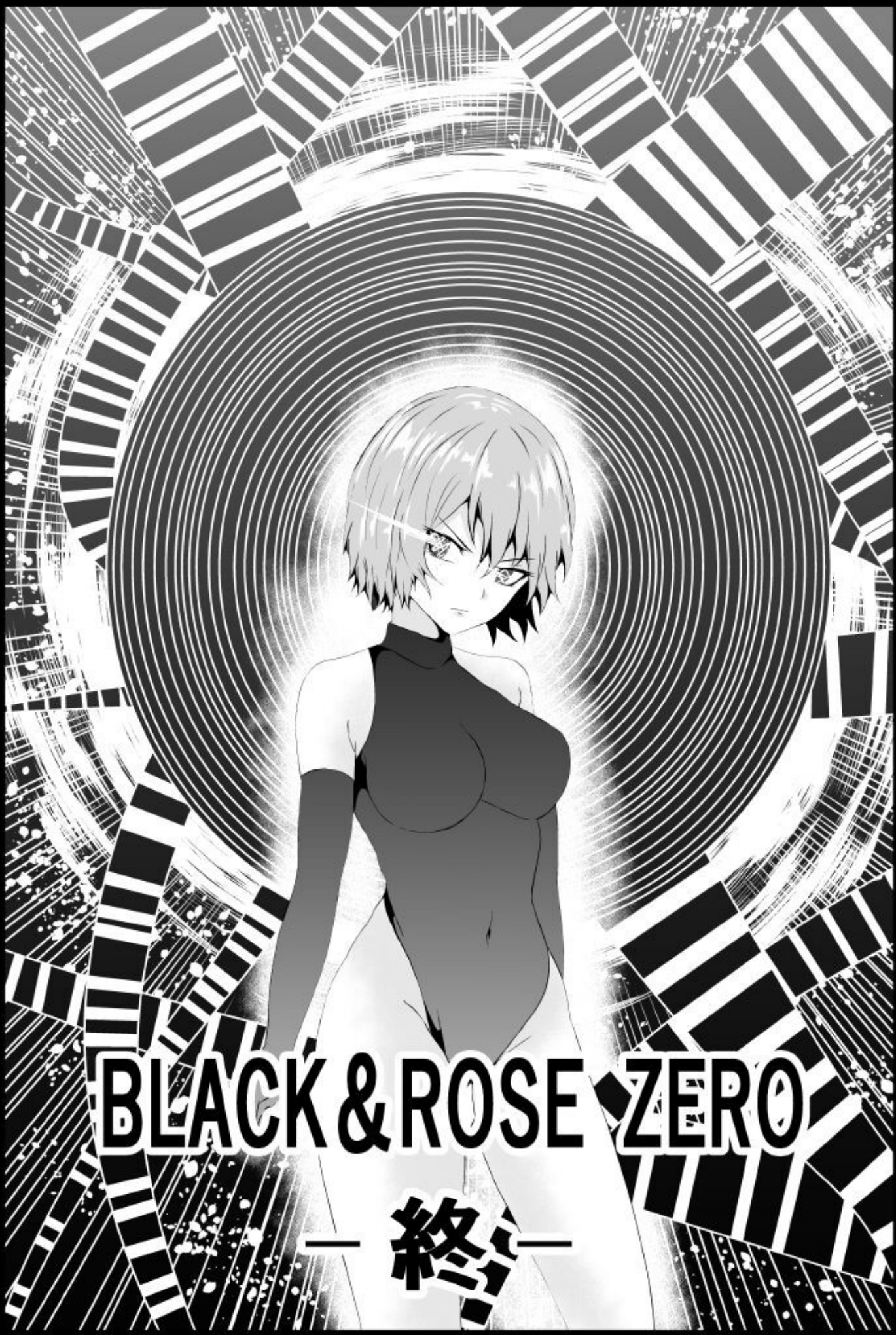

BLACK＆ROSE ZERO
―終―


クロちゃんはさ
一人で旅をしてて
寂しくなったり
しないの？


ふぃ～
何だよ!?
ローズアンタ
分かってないわね～
分かってないわ～
二回言った事で
加速する怒り!!


どこにいて
どんなことを
していようが
孤独になんて
ならないわよ
孤独なんて
ありえない
・・・どういう事？
それはねー








カラン


ドサ


・・・
余計な事を
してくれたな
半端モノが・・


ズ
ズズ
ズ・ズ
ハ・ハ
ズズ


…
なるほど
血の流れを
止めているのか
だが無事な組織を
繋ぎ合わせた
応急処置に
過ぎないが…


その程度ならば
能力を使いこなせ
ているようだな


ふ・ふざけんなよ！
お前クロちゃんの
仲間なんだろ!?
だったら少しは心配
いや早く病院にー
ズリ
ドチ
!!


ゴゴゴゴ
喚くな
半端モノが


そもそも私と黒橡は
今しがた
争っていたのを
見ていた筈だ
ッあ
ぐっ
そしてー

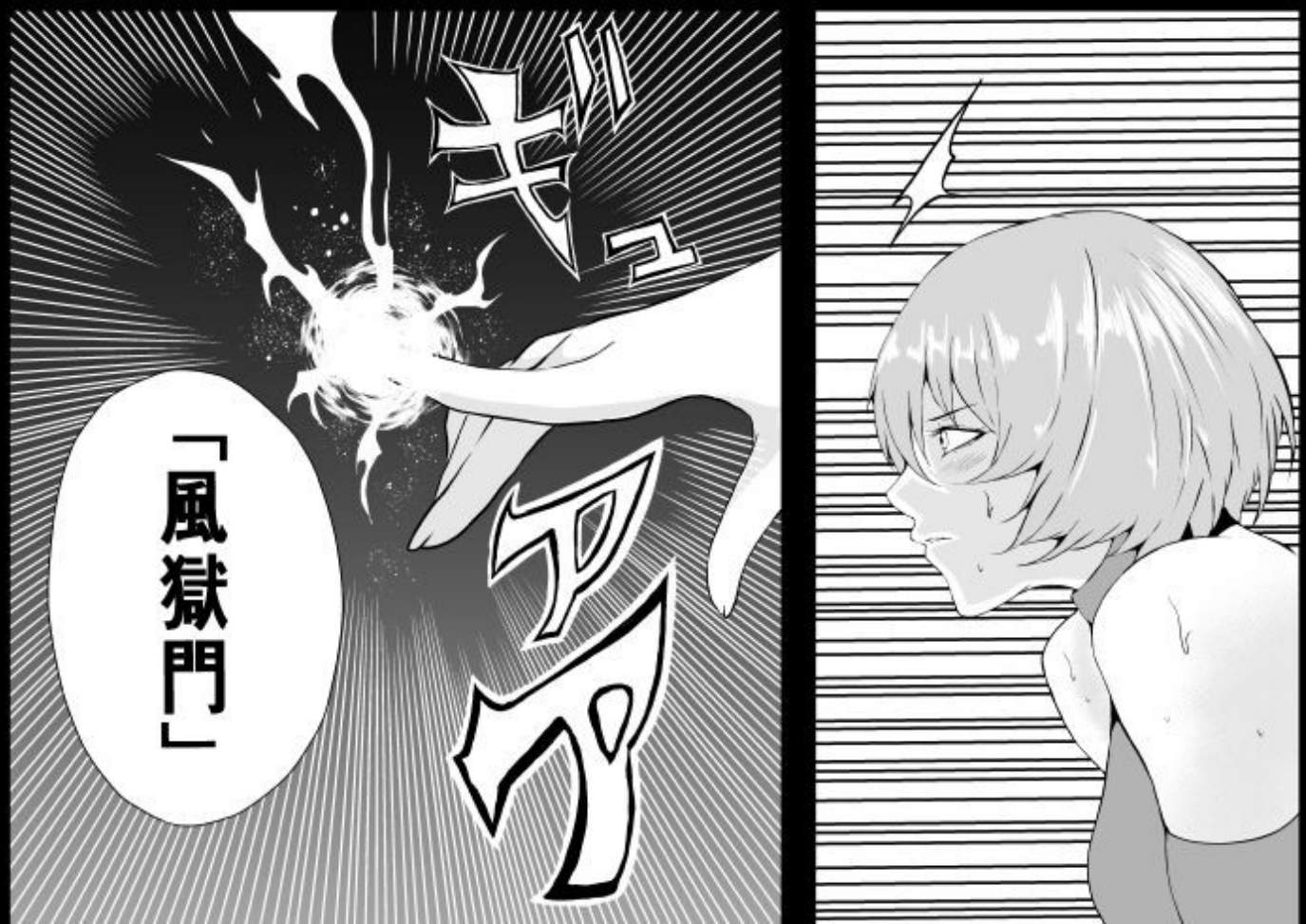

黒橡が
負傷したのは
お前が横やりを
入れたせいだろう
っつ！
だからー


アタシが
助けるから
ジャマすんなよ!!
喚くな
と言っている
ズズズ
ズズ




オオオオ


「万物掌握」


ギュ
ア
「風獄門」


オオオオオオ


!?!


なんだ？
何を驚いている？
本質的には
お前と同じ事を
しているだけだ


だがまぁ
威力は
此方の方が
格段に上だがな
オオオオオオ


ナイト！




ドン
カツ
カツ
カツ
がぁあああ!!
ド…

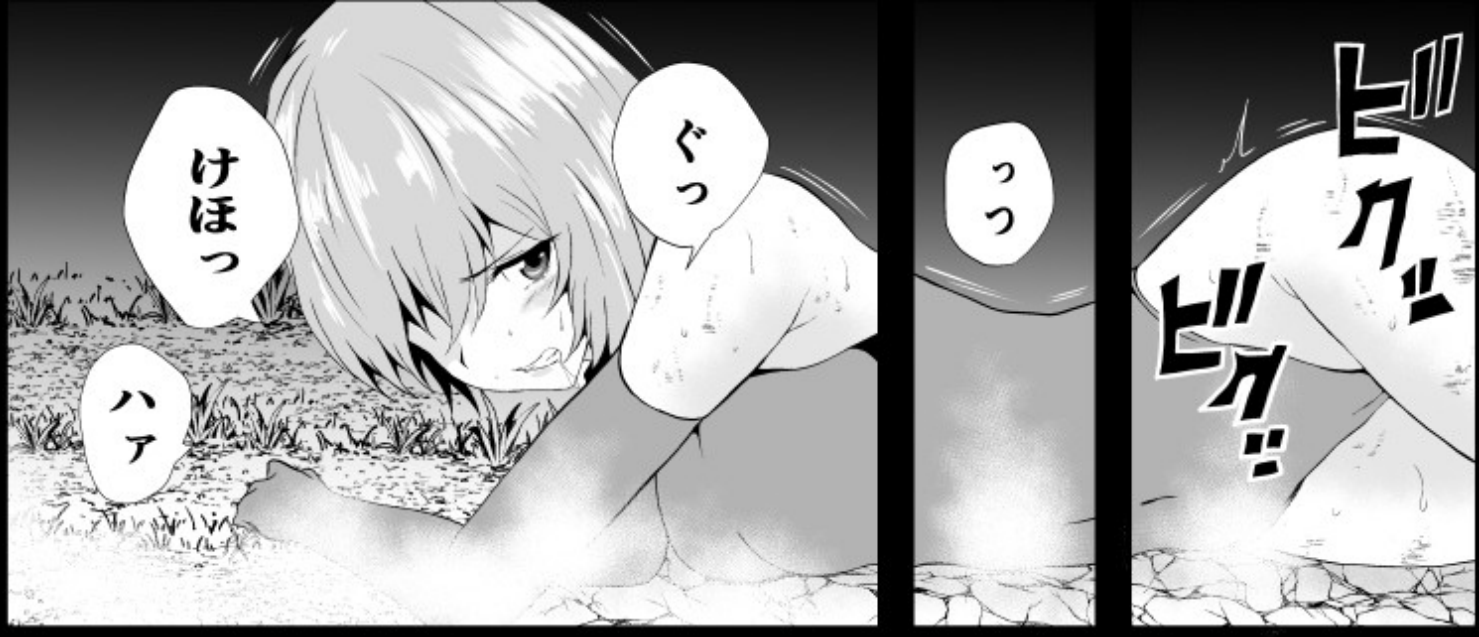

ま・・だ

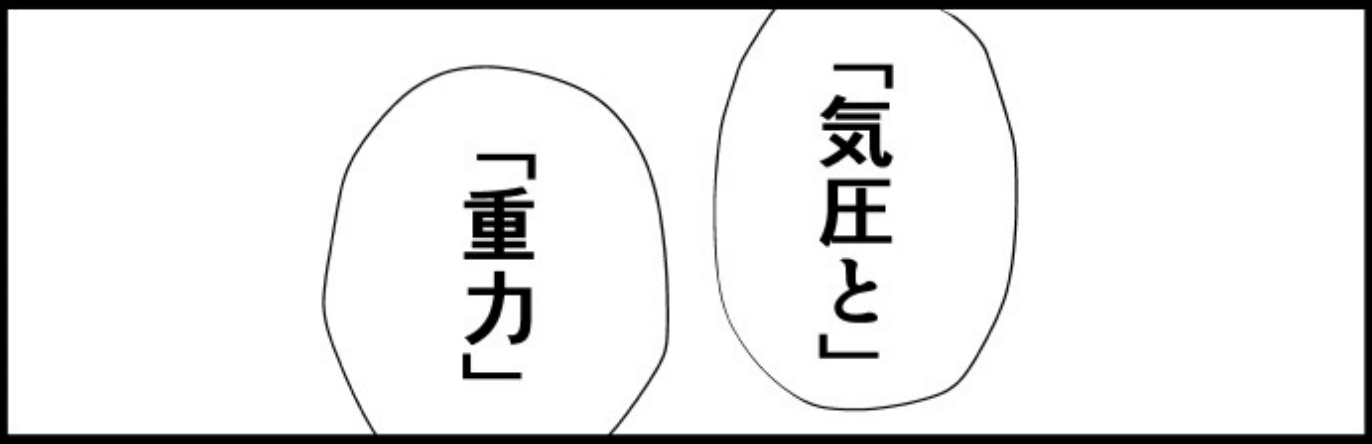



無駄だ


あっ・・
うぁ・・




ヒュッ
ビクッ!!
っっ
ぐっ
けほっ
ハァ


「気圧と」
「重力」


!


能力として扱えるのはその二つか・・
半端モノにしては上出来だな
な・・にを
何だまだ分かっていないのか?


お前は人間とイーバのハーフだろう
人種に当てはめればお前はヨーロッパ人だ




ならば
イーバとしての種はドコになる？




そう
お前はー
私と同じ種の
血を引いている
ハーフだ


お前の生い立ちは
調べている
孤児として
施設で育ち
能力が戦闘向きで
ある事がわかり
ガイアに入隊した
その過程で
気付いた筈だ


自分の周囲に
人が集まって
来ないことに


私達の種は
能力が
強大過ぎる故に
無意識に圧を
かけてしまう
私達の近くに
いると相手は
常に緊張状態に
晒される
だからこそお前は
ガイアの任務に
精を出した


最年少で
部隊長を
任されるくらいに
居場所が
欲しかったか？
仲間が
欲しかったか？
その結果が
コレだろう
最初の戦闘時に
お前の服から
奪ったモノだ
中身は
睡眠薬に
安定剤
お前ー


不安障害に
苛まれているな


返せよ・・


まさか唯一の種の
生き残りが
このような
半端モノだとはな・


返せ!!




ウルフ


ハーフ故の苦悩か・・
ガクガク
ビクン
ギクギク


人間の脳で最優先されるのは生存だ
生き死にの世界には当然拒否反応を示す


返・せ
ぐぐ
良いのか？黒檬を放っておいても？


クロー！


!!!
ボッ


ァァァァァァァ
ぁあっ
あぁ


あぁあああ


うぁあああ
あぁああ


おっー
びくっ


ビクン
ビクン
はァ
はァ
はァ
ブル
ブル
ブル


ゲボ
うぇ
おぇえええ!!


ハーフ故に
能力もまともに
使いこなせず
げっえ
うぇ
あっ
ガクガク


友も助けられず
戦いにおける
覚悟も持てず
だから先程から
言っているんだ


お前は
半端モノだと


マンテクスの奴め・・
ハッ!!
ー!!
やれやれ・・
ドドド
ドド
ドド
ザザ
!


オオオオオ
しくじったな・・
オオオオ


・・ビ・・オラ
チッ


なんて
ツラしてんだよ
テメェェエ!!


ドン


まぁ
良いか
ホ!!


別に・・
オオオ


大した
問題ではない


ドドドドドド
圧倒的な力で


ドドドドドド
ねじ伏せるだけだ


貴様の能力は
全部ガイアの
内部資料から
把握済みだ
ガイアの
上層部を裏で操り
分身の能力を
持つ奴と戦わせ
監禁して
研究対象と
されたことなど
貴様は知る由も
ないことだが


逃げろ！
ビオラァ!!


ドロ


ビ!!
ガクガクガク
シュウ
無思慮に
相手に噛みつき
吠えるだけ
そのくせプライドだけは
一人前の弱者が
貴様のような奴を
見てると殺したくなる


ガッ
ビス
・・が・・っは‼
ビリーー
ガガガガガガガガ


こ・・の・・
ぐぐ
やめ・・
あぁ
そうだな
ここでだ
このタイミングで
奇襲をかけてくるのがオマエだ
ルイーズ


ドン
あっ・・ぐぁ
ビクッ!!
ガクガク
・・くそ・・
電撃
炎
重力・気圧


それらの
現象を把握し
解析する


ソレが私達の
能力の本質だ
そしてー


それはもう
終わっている
ア
ア
掌握している



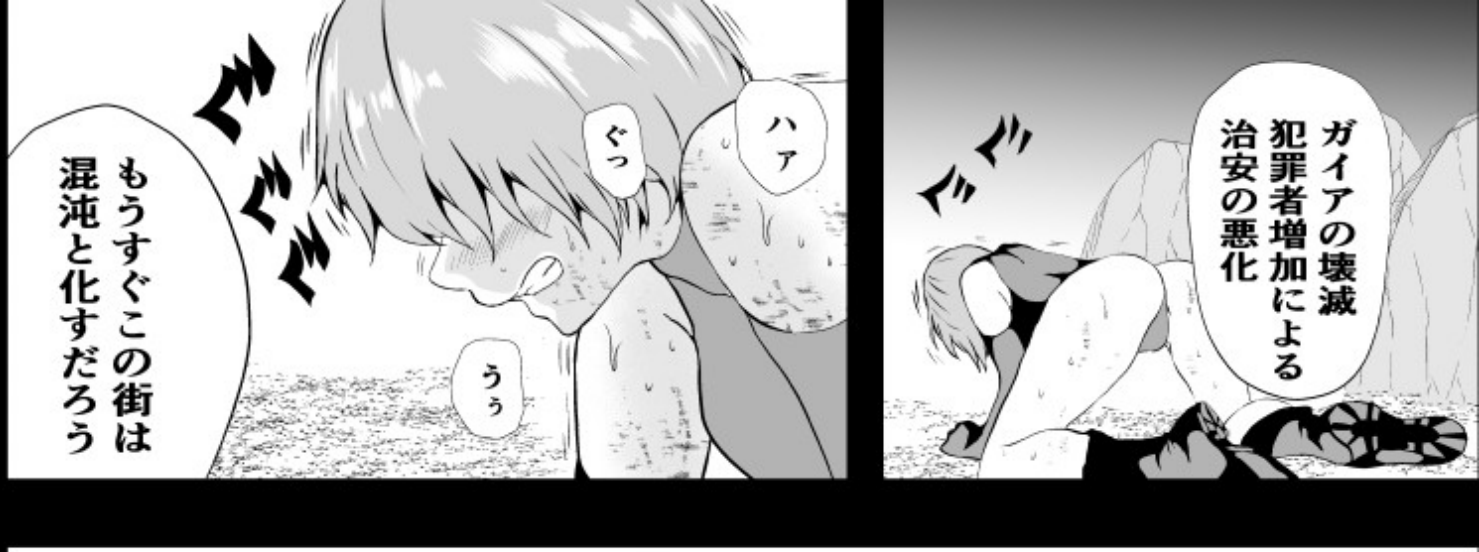
オオオオオオ


「ガイア」は
もう終わりだ
ドドド


水面下で私はガイアの
上層部の連中を
裏で操ってきた
主に政治家及び
官僚機構との
癒着関係の示唆
そして部隊の情報を
得ると同時に
反イーバ団体に
上層部の癒着の
証拠を流してやる


今頃ガイア本部は
反イーバの連中の
暴動対応している
頃だろう


そして他の
ガイアの精鋭部隊にも
私が手配した犯罪者を
向かわせている
最初から
お前達は私の
手のひらの上で
踊らされていたんだ
ガクガク


ガイアの壊滅
犯罪者増加による
治安の悪化
ゴゴゴ
ハァ
ぐっ
うぅ
ゴゴゴゴ
もうすぐこの街は
混沌と化すだろう


ク・・
・ん・・


クロ・・
ちゃ・ん


・・お前と
黒橡の
関係性は
予想外だった


最初にお前の所に黒橡を向かわせることで
対立構造を作りだすつもりだったが
まさか一匹狼の黒橡がお前の事を気に入るとはな
しかしそうなることでお前が黒橡といるあいだ
ガイア関連の計画は進めやすくはなったが
もはや
詮無きことか
ズズズ
カッ
ナオ


!!
!
・・・黒橡


ズッ
なんて
顔してんのよ
アンタ


逃げなさい
ローズ……
ドッ
ウ!
ア
ア
ア


終わりだ





超瞬間移動

黒橡の能力
そして彼女には
もう一つ

他人に
数秒間だけ
能力を付与できる
チカラがある



先程ローズに
ソレを使用し
その力で
逃げるように諭した

ハズだ・・


ならばコレは何だ!?
ピシッ
パキ
黒橡と戦った時に彼女が見せた能力の片鱗：

なぜコイツが使えている？
いや・・・


先程私は
何と言った!?



そして私は
私達自身の
能力の本質は

「解析」だと
言ったのだ

ならば黒橡が
ローズに能力を
一時的に付与したことでー


黒橡本来の
チカラを
無意識に解析して
いるのか!!
ローズ・
それはねー


全ては
繋がっているから
？


例えばね今こうして
私達が話してる場所は
沢山の人が泣いたり
笑ったり怒ったりした
場所で
それを何千年も経て
私達の物語ができてる
そしてそれは
また続いていく
繋がっていく
その一部だと
感じれたら
寂しさなんてない


…
あたしには
よくわからないんだねぇ
チュー
アハハ！


そっかそっか～
じゃあ簡潔に言うわ







全ては繋がっているー


人種だけではははなく
生物だけではなく
全ての現象
全ての存在は時間を超え
否応なく繋がっている
アタシは
ソレを表現する

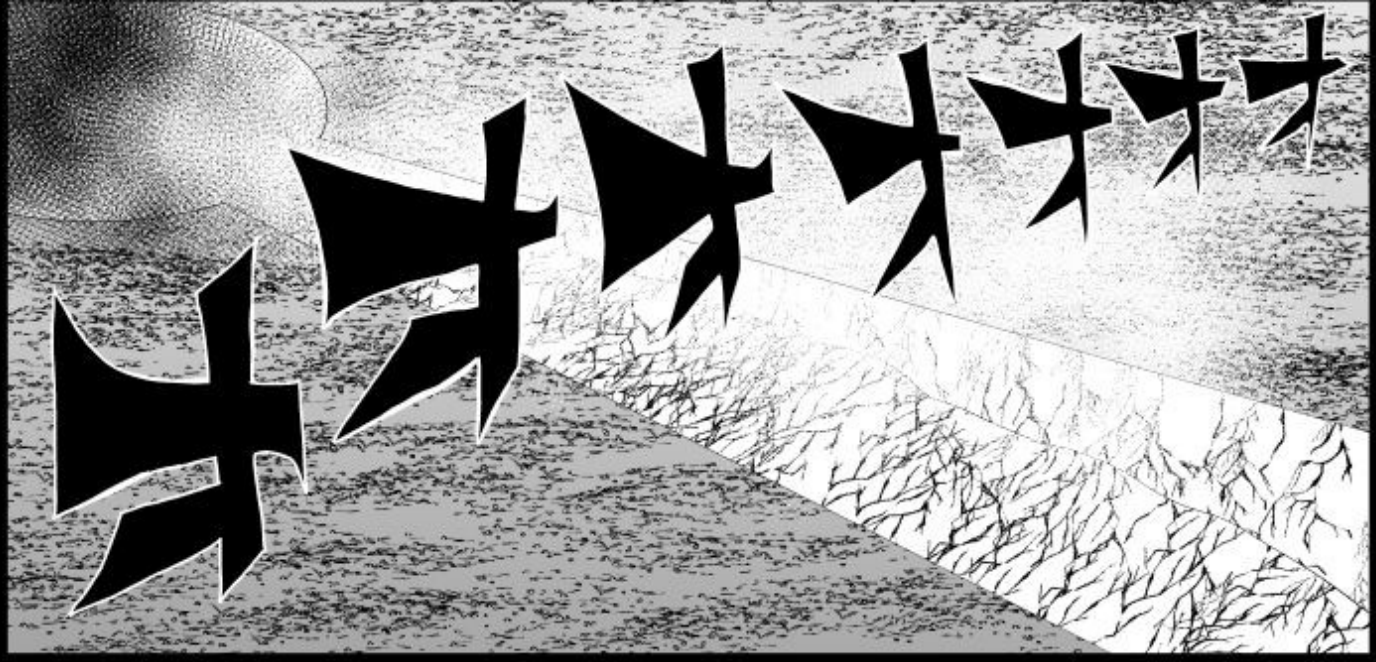

ソレを掌握する


次・元・


掌握


ルイズ
カリ
ン
ギギギギ


ミュウ
ギン


オオオオオ


ククク
まさかまさかだ
黒橡には
何かあると
感じていたが・・


私達の種を
淘汰した能力を
お前が使うとは・・
オオオオオオ


そのチカラ
是非とも
モノにしたい
無理だよ

繋がりを
切り捨てる
お前には

一生わかんないよ

最年少で
成り上がった
お前が言うのか？

：ガイアの
部隊長に

だからだよ

だから私達はー


クロちゃんの
気高さを
好きになったん
じゃないのかよ
…吠えるな
半端モノ
適者生存が
この世の本質だ
…なら


お前
ズズ
いらねぇよ・・・・・
・・・
・・・ククク
クハハハ！
あぁやっと
実感したぞ
ハッ
やはりお前は
私と同じ種だよ

不要ならば破壊して
排除するまで!!


ハハハ
コイツとこのまま戦り合っていても
だが分かるぞ
押し切られる
ビビビ
その能力は仮初めだろう？
一時的に使用しているだけで時間制限がある
あと数十秒もあるまい
ならばそれまで時間を稼げばー

ピキ
ククク
だがな
なめんなよ!!


ガクッ
ガクッ
ガクッ
おっ・・
がっ
おぇ


あっ？
ぐ・・ぎぃ


カ・ラダが
・・動か・・な
ぐっ
かっは
ヒクヒクヒク


体中の筋肉や
骨が悲鳴を上げ
失禁までしているな
ガクガクガクガクガクガク


やはりそのチカラ
半端モノのお前には
負荷が強すぎる


「空間認識把握」
「気圧・原子認識把握」
「地点の距離認識把握」
お前の周囲全部を粒子に変えてやろう


「森羅万象」


















・・ひとつ


最後に戯言を
言っておこう


もし私と黒橡の
戦いにお前が
邪魔をしなければ
勝っていた
のは黒橡だ
そして黒橡は
英雄として
名をあげていただろう




しかしお前が
割り込んだおかけで
黒橡は私の組織の
仲間として犯罪者になる
これからは
奴は茨の道を
辿ることになる


どうだ?友の
黒橡の未来と道程を
奪った心情は?


ごちゃごちゃ
うるせーよ

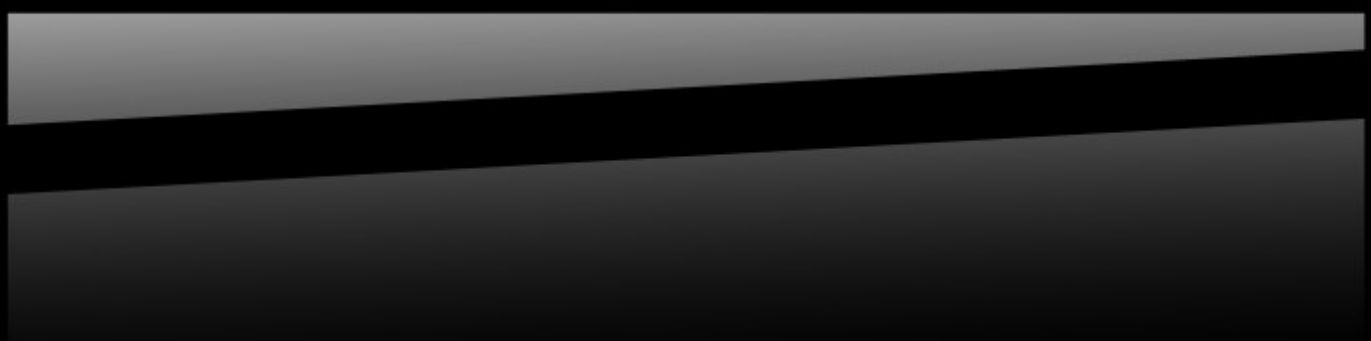

世界とか
イーバの為とか
全部が全部
どうでも良くて
お前はただ
クロちゃんと友達に
なりたかっただけだろ







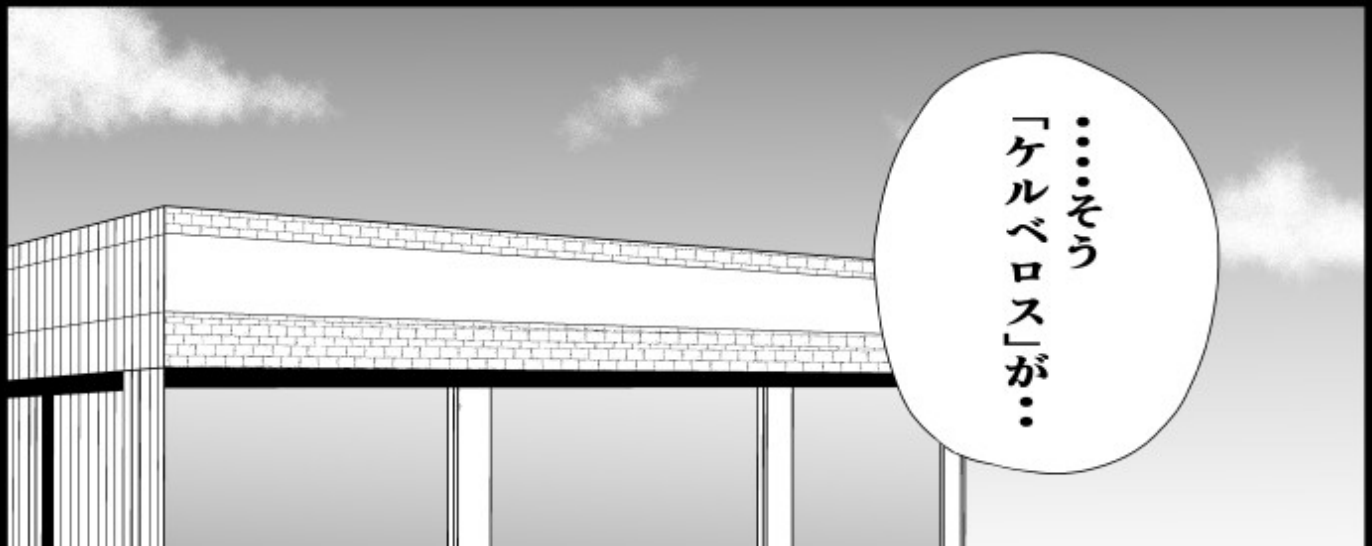

それ・・こそ
戯言・・だな




おはよ
クロちゃん


ローズ・・

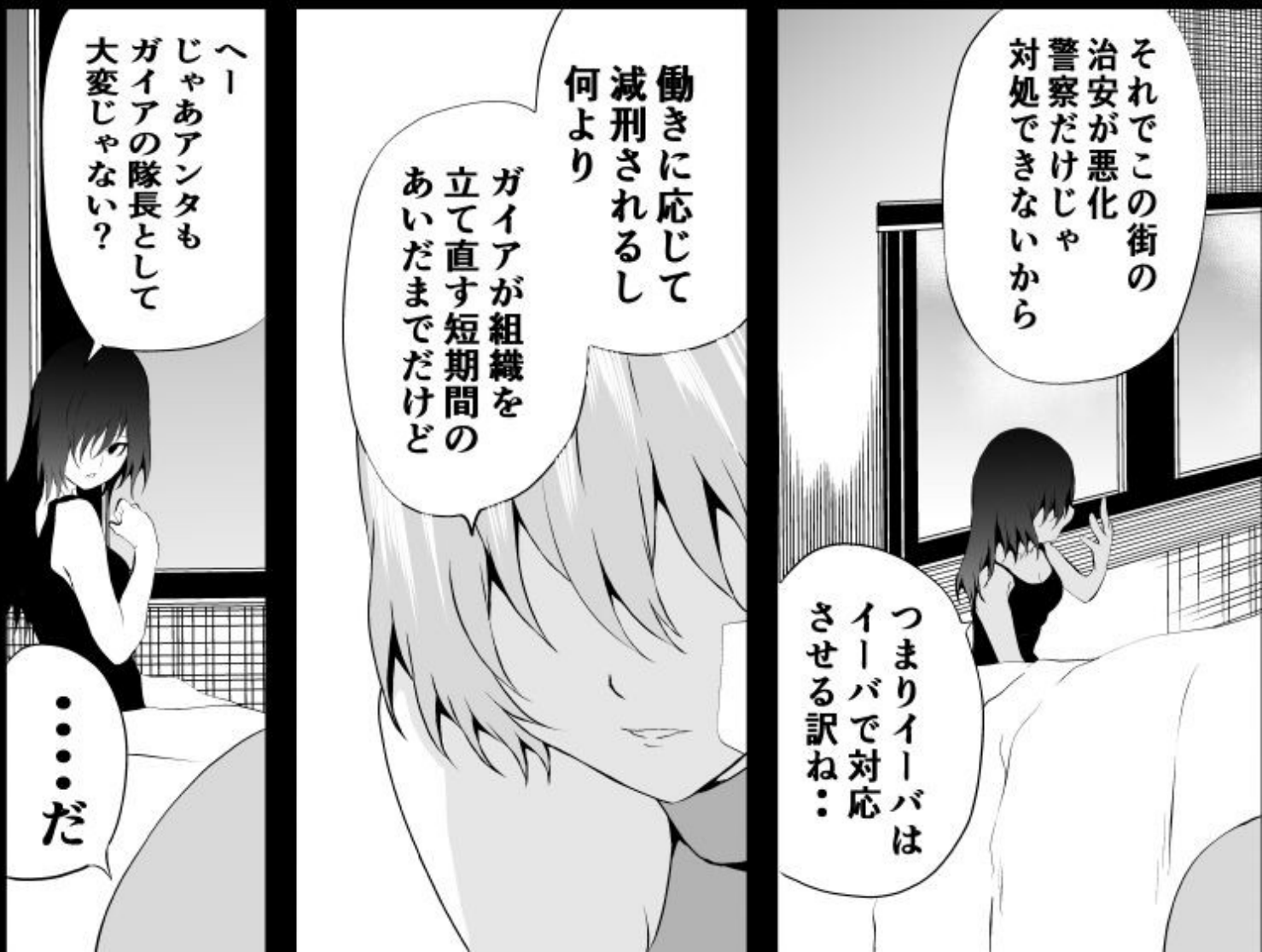



・・・そう
「ケルベロス」が・・


うん・
ボスが死んで
組織は崩壊
残党は
大半は確保
できたよ
・・そっか
ってアレ？
って事は
私も逮捕じゃん!?
やっべ！
はいコレ
？
ピラ
・・・・
賞金稼ぎ？


実はガイアも
崩壊状態で
組織として
成り立たなく
なりました
何デ!?


ボス・・
ロベリアが
部隊の構成員を
ほとんど殺害と
ガイアの上層部を
ぐちゃぐちゃに
したせい
・・アイツ
しっかり爪痕
残してるわねぇ


それでこの街の
治安が悪化
警察だけじゃ
対処できないから
つまりイーバは
イーバで対応
させる訳ね・・
働きに応じて
減刑されるし
何より
ガイアが組織を
立て直す短期間の
あいだまでだけど
ヘー
じゃあアンタも
ガイアの隊長として
大変じゃない？
・・・だ


アタシ
ガイア辞めたんだ
・・・元々
向いて
なかったんだ
なのに無理して
戦ってクロちゃんにも
迷惑かけちゃった
・・・ゴメン・・・
・・・そう


ローズも一緒に賞金稼ぎやるのね～
・・・え？
え？
ガイア辞めて賞金稼ぎやるんでしょ？
ナンデ？何でそうなったん!?
アタシパニック!!
いやだって本当にさー


やりたくなくて嫌なことだったら
そんなカラダ張ってまで戦わないでしょ・・


それは・・
あと謝んないでよ
この状況は私が
自分で選択した
結果だもの
たぶんロベリアの
近くにいた重要参考人の
私がこの程度の処分で
済んでるのは
アンタが裏で
手を回して
くれたんでしょ？
そしてアナタは
私を命がけで
守ってくれた
その行為には
義が通って
情があったと
確かに思うから

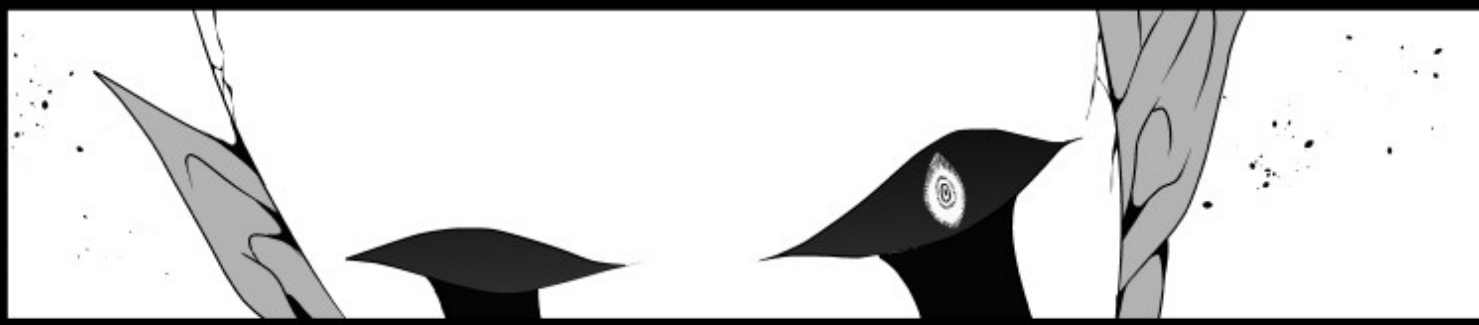

私は一人の
友人として
アナタを誇りに思う
ありがとう
ローズ・・・
見た目は
オレンジ大好き
小動物って感じ
なのにねぇ
ってちょっー
ドサ…
うぉおお!?


だか・・ら
台・・無し
なん・・だよ
バァ・・・カ




・・・灰色だ
・・ボス・・
私は・・


やるよ
カポ




ビオラの
行方はいまだ
掴めてないわ・・


・・そっか
ありがと
でもアイツとは
どこかで巡り合うと
思うから・・
ふ～ん
そういえばアナタ
だいぶ雰囲気
変ったわね
そうかな～？
賞金稼ぎも
大変なんだよ～

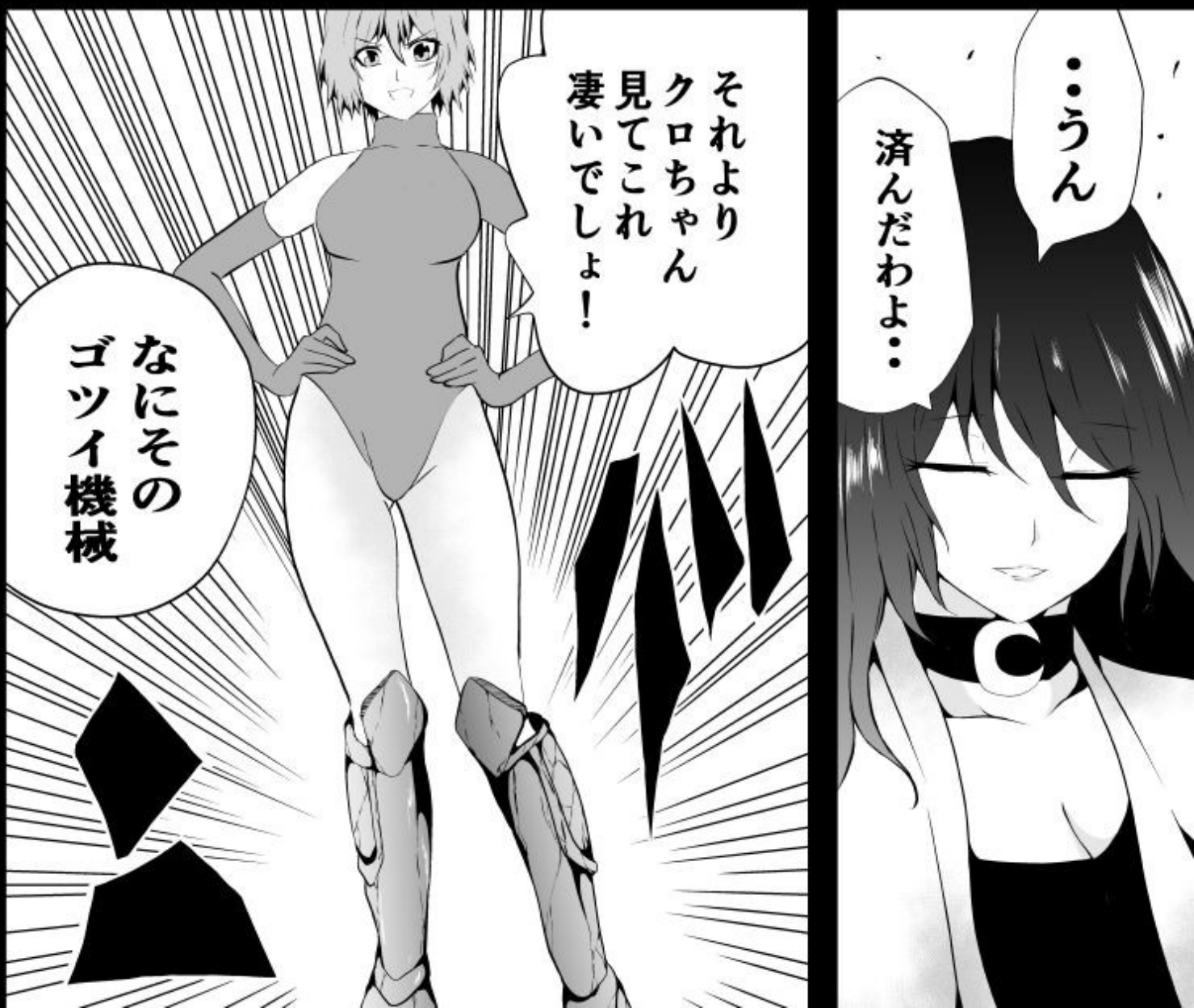

アナタには
そういうスタイルの
方が性に合ってん
じゃない？


・・そうかな


おーい
あっクロちゃんだ
じゃまたね～


・・ほんと仲が
よろしいことで


あっゴメン
取り込み中だった？
いんや
盗聴と暗躍
大好き女だから
大丈夫～
・ルイーズね
クロちゃんの
用事は～？


・うん
済んだわよ・
それより
クロちゃん
見てこれ
凄いでしょ！
なにその
ゴツイ機械


これは
重さにして
百キロはあるんだよ
は⁉
よくそれで
動けるわね
随時重力操作
してるからね～


気圧を操る時は
このアーマーを
介して攻撃するのだ！
ビシッ
なんかすごい
縛りプレイね


これで敵は
即死から半殺しに
なるのだ‼
ドン
ごめんやっぱ
そうでもないわ


でもー


殺しちゃう
よりは良いよ
・・・そうね
殺しちゃうと
賞金減っちゃうし
だからクロちゃんも
ナイフと剣捨てたの？
・・・まぁ
そんな所かな・・



そうそう
私の賞金稼ぎの
コードネーム
決まったわよ！

何にしたの？

ブラック!!

・・・もうちょっと
・・こう・・

それよりそろそろ
お昼時だから
早くお店いかないと
混むわよ



・・・・
そうだねぇ

ってかアンタ
いつもその服ね

別にコレが
動きやすいし～

あっじゃあ
ランチのあと
服買いに行きましょう！

え～
めんどいんだよ

近くに美味しい
オレンジジュース
出してくれる店
あるけど

オレンジ♪

あとせっかくだし
髪も伸ばしたら？

ジャマくさいよ～

キレイな金髪
してんだら
もったいないわよ

う～ん
似合うかな？



似合うわよ
きっと・・

ご購入ありがとうございました！



※この物語は
フィクションです。

実在の人物・団体・事件などには
いっさい関係ありません。

本作品の
無断転載・加工・複製を禁じます。

尚18歳未満の
閲覧・購買は禁じます。

サークル

Aries